

	中期経営目標【3年間】	短期経営目標【1年目】	目標達成のための手立て	評価項目<評価方法>	評価	最終評価
確かな学力	基礎・基本の定着 及び課題発見・解決学習の充実<一中におけるコンピテンシー育成>	<ul style="list-style-type: none"> 「一中におけるコンピテンシー」育成のための「主体的な学び」となるよう各教科で授業を実践し、自律的に学び、活動できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教員が各教科の授業で「一中におけるコンピテンシー」育成のための「主体的な学び」となるよう各教科での授業の工夫、改善を行う。 広島県公立高等学校入試問題の傾向を検証し、各教科で評価問題を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「各教科の授業がわかる、面白い、楽しみである」の3項目で肯定的な回答をする生徒の割合が70%<生徒アンケート>(4月, 6月, 2学期の計3回実施) 「各教科において評価問題を開発することができた」という肯定的な回答をする職員の割合が100%<職員アンケート>(3学期実施) 	3	<ul style="list-style-type: none"> 「授業がわかる、面白い、楽しみである」の3項目での生徒アンケートの結果は次の通りとなった。 6月実施結果 授業がわかる(85.6%) 授業が面白い(76.4%) 授業が楽しみである(70.9%) 12月実施結果 授業がわかる(82.2%) 授業が面白い(74.8%) 授業が楽しみである(69.6%) 肯定的回答をした生徒の割合は「楽しみ」の項目で0.4%目標を下回った。校内授業研究会は22回実施し、「主体的な学び」に向けた教職員の授業改善に対する取組を大きく進めることができた。 「各教科において評価問題を開発することができた」という肯定的な回答をした職員の割合は100%であった。全教科で広島県公立高等学校入試問題を意識した定期試験問題の作成に取り組むことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を大切にし、「書く力」「伝え合う力」を高める指導及び家庭学習の定着の充実を図るとともに、自分の考え等を分かりやすく書き、伝え合うことのできる生徒、また、自ら学ぶ力を身に付けた生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、「振り返り」を充実させる。 自分の考えをノートにまとめたり、伝え合ったりする場面(言語活動の活用等)を充実させる。 各学年の家庭学習目標時間(学年+1時間)に応じて、宿題の出し方(量, 期限等)を教科担任間で連携・調整する。その状況を担任も確認し、必要に応じて保護者連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本」定着状況調査の平均通過率60%以上の生徒80%以上、30%未満の生徒を0(6月実施) 自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」「相手意識をもって、分かりやすく伝えている」生徒70%<生徒アンケート>(各学期末に実施) 	3	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本」定着状況調査の結果(通過率)は次のとおりである。 第一中学校 国語(71.0%) 数学(68.6%) 理科(55.1%) 英語(78.5%) 広島県 国語(69.2%) 数学(66.9%) 理科(50.8%) 英語(72.4%) 60%以上の生徒 国語(74.5%) 数学(63.9%) 理科(53.2%) 英語(81.1%) 30%未満の生徒 国語(4.0%) 数学(4.0%) 理科(11.4%) 英語(0.8%) 県平均をどの教科も上回ることができているが、目標とする数値には到達できなかった。 自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」(1学期89.7%)(2学期88.3%)「相手意識をもって、分かりやすく伝えている」(1学期78.0%)(2学期77.3%)となり、目標の数値を達成することができた。
豊かな心	豊かな人間性の確立	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導体制を確立し、問題行動の未然防止に努める。 自治的活動を推進し、生徒一人一人の自己指導能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会を週1回開催し、情報の共有化と今後の指導方針を確立させる。 生徒会活動や学級活動を充実させ、集団の一員としての役割と責任を自覚させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「休まないこと・遅れないことを意識しながら生活している」「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」「身だしなみ(服装・頭髪)のルールを守っている」生徒100%<生徒アンケート> 「本気で(時間いっぱい、ていねいに)掃除をしている」「誰にでも、自分からレベル5のあいさつを意識してできている」「自分の学校や学級での役割を果たすことができている」生徒100%<生徒アンケート> 	2	<ul style="list-style-type: none"> 12月に実施した生徒アンケートにおいて、次の3つの質問①「休まないこと・遅れないことを意識しながら生活している」②「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」③「身だしなみ(服装・頭髪)のルールを守っている」④「本気で(時間いっぱい、ていねいに)掃除をしている」⑤「誰にでも、自分からレベル5のあいさつを意識してできている」⑥「自分の学校や学級での役割を果たすことができている」に対して肯定的な回答をした生徒は90%以上(①95%②97%③97%④95%⑤94%⑥96%)ではあったが、100%の目標に達することはできなかった。 1年間を通して、生徒の実態は規律正しく生活できている、全体の生活レベルは向上している。 今後さらに、生徒の主体的な活動を取り入れながら、生徒会と協力をして学校の活性化を目指していく。今の生活指導を見直し、改善させながら生徒の主体的な活動に対して『評価・ふり返り』の部分により充実させ、継続して生徒に達成感や充実感を味わせ、自己肯定感の育成にも努めていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 認め合い・支え合える学級集団づくりを進めるとともに、自他ともに大切に生活できる生徒を育てる。 学校行事や部活動を通して、生徒の主体的な活動を推進し、思いやりの心やリーダー性を発揮できる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> QUアンケートを年間2回行い、データを参考にしながら集団づくりを進める。(分析結果等を夏季校内研修や学年会で交流し、データを活用する) 生徒会活動や部長会を活性化し、生徒が主体的に活動する手立ての工夫を行う。(生徒朝会の定例化や集会で目標や課題の共有化を図る) リーダー指導・育成を充実させ、主体的な活動に繋げる工夫を行う。(学校・生徒会行事や執行部会・部長会・小中リーダー研修等を活用する) 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」生徒90%以上 「毎月の生徒会目標を意識して生活している」生徒70%以上 「行事(体育大会・文化祭など)や生徒会活動(執行部・各種委員会など)、学級活動(係・班など)、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」生徒100% 	3	<ul style="list-style-type: none"> 12月に実施した生徒アンケートにおいて、「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」に対して肯定的な回答をした生徒は87%であり、目標には3%届かなかった。「毎月の生徒会目標を意識して生活している」に対して肯定的な回答をした生徒は73%であり、目標には3%上回った。「行事(体育大会・文化祭など)や生徒会活動(執行部・各種委員会など)、学級活動(係・班など)、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」に対して肯定的な回答をした生徒は96%であり、4%届かなかった。 QUアンケートや上記の生徒アンケートを分析し、より生徒実態に応じた教育活動を展開するとともに、リーダーとフォロワー育成を徹底し、集団づくりを今後も継続的に進めていく。また、生徒会活動や学校行事等の取組を通して、生徒一人一人に役割をもたせ、最後まで責任をもちやり切る指導を徹底し、集団の一員としての自覚をもたせる。
健全な体	生きていく基礎・基本となる体力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 体育授業や部活動・委員会活動等を通して、「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組・指導を連鎖的・継続的に行い、全身持久力を中心にバランスのとれた体力を身に付けた生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育授業の準備・補強運動に体力を高める運動(特に全身持久力)を計画的に取り入れる。 「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組(部活動強化週間、生活リズム向上キャンペーン、駅伝大会等)を毎学期1回企画・実施・評価する。 「昼休憩のボールや縄跳びの貸し出し」等を行い、運動が行いややすい環境づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テスト(①5~6月, ②11月~2月)の「全身持久力」の項目において、各学年男女とも全国平均・県平均を上回る。 「体力を高めることを意識しながら生活している」「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」生徒85%以上 	3	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの「全身持久力」において、男子は2, 3年生, 女子は1, 2年生が全国平均・県平均を上回った。男子は、中学入学後に持久力が向上し、女子は2学年をピークとし、低下傾向であることがわかる。全身持久力向上のために、体育の授業では5分間走を継続的に実施したり、部活動対抗駅伝大会を計画したりしている。今後も生徒実態に応じた指導を組織的に行っていく。 12月に実施した生徒アンケートにおいて、「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」と肯定的な回答をする生徒が85%であった。なかでも2年生は88%の生徒が肯定的な評価をしていたことから、生活改善意識の高さが伺える。しかし、全国的にタブレットやスマートフォンの普及から睡眠時間が減少傾向にあるため注意が必要である。